

明治学院大学国際学部における国際キャリア学科
(Department of Global and Transcultural Studies) 設置の趣旨

ア. 設置の趣旨及び必要性

1. 教育研究上の理念・目的

(1) 21世紀の国際環境及び教育環境の変化

現在、日本を取り巻く国際環境は激動し、ますますグローバル化が進展している。その結果、国境や地域を越えたヒト、モノ、カネ、サービスの移動が一層頻繁になっているが、こうした中で、各国間および地域間の経済的・社会的格差が拡大してきており、同時に世界規模での情報ネットワークの充実とともに、民族間や宗派間の対立・紛争が激化しつつある。これは短期的な現象ではなく、20世紀の後半、特に1990年代以降顕著になりつつある長期的なトレンドである。このような激動期にあつて、他の国と同様、わが国でも、社会と経済と環境のバランスの取れた持続可能な発展を目指さなければならないし、実際にその方向に進んでいる。

このような新たな環境の中で社会の発展に貢献できる人材の育成として重要な点は、まず何よりも、現在のグローバル化・多様化した世界で生じている現象を、的確に理解できることである。また現実の事象は複雑な様相を呈しており、特定の学問分野からのアプローチでは必ずしも十分かつ的確な理解に到達することはできない。この点で、学際的なアプローチが有効となる。第二に、このような学際的なアプローチによる理解力や洞察力の涵養に加えて、実際に何らかの形でグローバルな問題の解決に向けた貢献・参画も重要であり、また今後の世界の動向を理解し、その発展に貢献・参画するために、日本及びアジアを媒介として世界の問題を考えることが重要となる。そして第三に、世界の持続可能な発展への貢献の観点から、このような作業を行うためには、多国籍の人々の共同作業（これは多言語と多文化の共存を包含する）が必要となる。この点において、多文化理解に基づく、事実上の世界の共通言語としての英語によるコミュニケーション力の向上が大変重要と考えられる。

こうした観点は、実は多数の国内外の教育機関によって共有されているものである。日本においても、早稲田大学、法政大学、立教大学、明治大学等、有力大学が国際系学部を新設し、多数の受験生を集めている。このことは、日本国内に限定された話ではなく、世界、とりわけアジアにおいて、第一級の大学は、外国からの優秀な学生を集め、教育することに多大な努力を払うようになってきている。それだけでなく、これらの日本および他のアジアを始めとする外国の大学との間で、単位の互換を始めとする協力関係が今後かなりのスピードで進展していくものと予測される。

(2) 21世紀に求められる教育の特徴

それでは、このような変化しつつある教育環境の中で、どのような教育が今後求められていくのであろうか。この問題を考える上で避けて通れない要素が、実はわが国において存在する。それはわれわれが教育の対象とする学生の質の変化、具体的には最近の高校生の状況の変化である。しばしば言及されるように、近年のグローバル化の進展にもかかわ

らず、現在の日本の中学生・高校生は一般的には海外の動向に対する関心が低下しており、実際に高校生の海外留学実績の減少傾向も見られる。(平成 22 年 1 月 28 日付、文部科学省初等中等教育局国際教育課「平成 20 年度高等学校等における国際交流等の状況について」を参照)

以上を踏まえた上で、前述した 3 つの教育の目的を達成するためには、われわれは以下のような教育内容を提供しなければならないと考える。

まず第一に、学生の勉学に対する強い動機付けを行うことである。もとより国際的な問題に強い関心を持つ学生を入学させることも重要であるが、こうした学生を含む多様な学生に対し、入学後も絶えず強い勉学への動機付けを行うことが必要となる。動機付けの程度に応じて、学生の学習の成果に大きな相違が生じるからである。第二に、英語を中心とする外国語の集中的学習による異文化コミュニケーション能力の育成である。多様な国際問題を深く理解するためには、いわゆる「座学」のみでは不十分で、多数の外国の人々と直接コミュニケーションをとることが重要である。そのためにはこの能力の育成が非常に大切な要素となる。第三に、専門科目の効果的な配置が求められる。既に述べたように現在の複合的なグローバル問題を理解するためには、単一の学問分野からのアプローチではどうしても限界がある。そこでは最低限、文化領域、経済領域、政治領域、社会領域などにまたがる理解が要求される。これらの分野にまたがる多様な専門科目を通じて、グローバルで複線的な価値観と深い洞察力を身につけ、現代の国際社会の前線で活躍できる人材を育成する。

すでに本学部の国際学科では、このような教育内容を提供してきているが、特に第 2 の項目に特化し、異文化コミュニケーション能力を現在国際的に必要とされる水準まで強化するカリキュラムを提供することが、新学科を設立する最大の目的である。

より具体的には、異文化コミュニケーション能力の強化の観点からは、Academic English Program (以下 AEP と略す) など英語教育プログラムの充実を目指す。英語に特化する理由は、現在の国際社会では経済取引のグローバル化、国境を越えた人的移動の活発化、インターネットの普及などによって英語が共通語 (lingua franca) としての性格を一層強めており、その結果、英語による経済、政治、社会、文化活動の国際社会全体への影響力が他の言語によるものよりも、非常に大きくなっているからである。この AEP を含め、本学科では原則的に全ての授業を英語で行うため、英語での多様かつ豊富なコミュニケーション能力が不可欠である。そのため入学後の 2 年間に集中させている AEP においては、その修了時点で、全学科生が最低でも TOEFL-iBT80 点 (TOEFL-PBT550 点) の取得を目指す。

上述のような集中的な AEP の授業を行い、個々の学生の英語コミュニケーション能力を向上させること、また本学科の学生は原則海外留学か中長期のインターンシップを経験すること、さらに本学科は多様な学生で構成しているため、学科生への学習・生活支援体制を充実させる必要があることから、学科定員をできる限り少人数とし、50 名を本学科の入学定員とする。

2. 人材育成と進路

ほぼ 1 世紀半前に設立された明治学院は、その教育理念として、“Do for Others” を掲げ、キリスト教による人格教育を行っている。そしてその理念を実現すべく、以下の

5つの教育目標を掲げている。①他者を理解できる人間の育成、②分析力と構想力を備えた人間の育成、③コミュニケーション能力に富む人間の育成、④キャリアをデザインできる人間の育成、⑤共生社会の担い手となる人間の育成、である。

他方明治学院大学国際学部は1986年の学部設立以降、教育理念として、国際的かつ地球的視野と総合的な判断力・実践力をもった自由な教養人を育成し、世界の平和と人類の福祉に貢献することを掲げ、またそれを実行に移すために、教育目標として、「現代のグローバル社会の諸相を理解し、世界の平和と福祉に貢献する人材の育成」（本学学則第5条）を掲げている。今回設立を予定している本学科の教育目標は、上述したような現在のグローバル化・多様化した世界において求められる人材の育成を実現することを目指し、以下のように規定している。

「国際キャリア学科は、グローバル社会の諸問題に対する、政治・経済・文化の各分野からの総合的な理解能力を涵養するとともに、多言語でのコミュニケーション能力を身につけ、多様な環境の下に生きる人々と協力し、リーダーシップを発揮できる能力を持つ人材を養成することを目標とする。」

この本学科の教育目標は、本学の教育目標及び国際学部の教育目標の双方に沿う目標である。

ちなみに、『明治学院百年史』の第二章「草創期の明治学院」の中に次のような記述がある。「以上のように、米人教師を主体とする普通学部の教育はかなり程度の高いものであったといえる。・・・殆んど科目は、英語の教科書を用いて英語で授業がおこなわれた。それだけに、生徒にも相当の語学力が要請されたことはいまでもない（155 ページ）」。

本学科は、このような本学の草創期における英語主体の授業を復活し、多様化した現代において必要とされる教育の実現を図っていく。

本学科はその教育目標を達成するため、具体的には以下のことを追求する。

- ・ 入門ゼミナールやライフ・キャリア・ディベロップメントなどの授業を通し、学生たちの研究対象であるグローバルな諸問題に対する強い意欲を持たせる試み
- ・ 柔軟な思考や広い心（Open-mindedness）や文化的多様性を尊重できる、多文化に対応した能力および個々の資質の育成
- ・ 分析力の向上、自己表現能力の習得および自己理解の促進
- ・ 複数の学問分野から得られるパースペクティブや知識を統合するために学生にとって必要な教材や教育方法の採用
- ・ 海外留学や中長期インターンシップを通じた、国際問題や多文化問題に対する深い理解と対応力の育成
- ・ Independent Study や Field Study などによる、現代の諸問題に対する実践的な経験の提供
- ・ 世界言語としての英語能力の養成
- ・ メディア・スキルやその他の技術的な知識の提供（Digital imaging, Movie creation, Webpage construction など）

このような能力は、これまでのわが国の教育環境にあっては育成が困難であり、かつ今

後ますます必要とされる能力である。また、本学の国際学科生の志向として、後述で説明する「校外実習」の経験や本学部の教員の影響から、国際機構・機関・NGO や外資系企業等への興味が強い傾向がある。新学科生にこのような能力を修得させることにより、国際的な場で、即戦力としての活躍が期待できる。具体的には、国際機関、国際 NGO、多国籍企業（メーカー、商社、ICT 産業、金融業等）、ジャーナリズム、メディアなどへ就職し、その各場所で多様な国籍のパートナーと協働していくことが期待される。また本学科の留学生に対しては、彼らの出身国と日本の双方の発展の架け橋となるような分野で活躍することが大いに期待される。

本学科の卒業生について特に期待できる点は、各学生の個人的な能力形成パスと将来の志望を考慮した個別的な履修指導制と徹底した問題分析・解決能力の育成を目指すカリキュラムの実施を通して、卒業後に自分で事業（ビジネス事業や社会的事業）を起こすような強い志向を持つ起業家が出現することである。そのために、国内外での中長期インターンシップ・プログラムが有益な刺激を提供してくれるものと考えている。

また現状では多くの国際機関や国際 NGO への就職に際しては、堪能な英語力に加え、大学院の修士課程を修了することが求められる。このため、国際機関・国際 NGO を志望する学生に対しては、国内外の有力な大学院への進学することを推奨し、それをサポートする体制を強化する。また、彼らが本学部と接続する国際学研究科への進学を希望するよう、今後本研究科との連携を強化し、大学院教育の質的改善（英語プログラムの拡充等）の達成に向けて、現在検討している。

3. 本学科の独自性と国際学科との相互関係

本学科の設置において、国際学部全体の収容定員および教員数の変更は行わない。両学科の対象とする学問領域は基本的に同一としているが、その教育の内容や方法の面で、両学科は異なることになる。

第一に、入学者の特性が異なる。本学科の入学者として、その半分は英語を主要な言語（ないしはそれに近いもの）として使う学生（ES: English Speakers）、そして残りの半分の英語以外の言語で教育を受けており、将来の進路としてグローバルな環境で仕事と生活をしていくことを考えている学生（EL: English Learners）を想定している。この点は、基本的に入学者の大多数が日本語で教育を受けている国際学科とは異なる。本学科では、入学する全ての学生が英語による授業を履修するために、それを可能とするレベルまで各学生の英語力を徹底的に鍛えるプログラムを置く。これが次項で説明する AEP である。

第二に、本学科の学生は、学問領域としては、国際学科の学生と同様、国際学領域の学問を学ぶことになるが、ほとんど全ての科目を英語で学ぶ点、また、徹底した少人数教育による双方向型授業を実施する点で国際学科とは異なり、前者は、学生は英語を用いて多岐に亘る国際学分野の学問を学び、ディスカッション、プレゼンテーション、論文作成を行い、後者については、基本的に多国籍で構成される学生が少人数で授業を受けることになるため、教員と学生間の双方向型授業が展開され、学生の積極性の促進につながる。このような少人数クラスでの双方向の授業とするため、教員が積極的に双方型授業の実施を図るほか、本学科を EL 生と ES 生で構成し、多国籍化することによって、学生がそのような環境を当然のものとして受け入れられる条件を整えている。また、新学科においては、

学生の将来の進路指導に力を入れていることから、入学後から個々の学生が自己のライフ・キャリア・デザインを意識できるカリキュラムを提供している。そのコアとなるのが、1年次・2年次で必修の Life and Career Development 1/ 2 とインターンシップ・プログラムである。

第三に、新学科で提供するカリキュラムを通し、在学中に身につけた専門知識やスキルを考慮すれば、本学科の卒業生は、卒業後直ちに英語コミュニケーション力を生かせる職場での活躍や、独自の発想を生かした起業家になることが期待できる。その具体例はすでに述べたとおりである。

以上が両学科の主要な相違点であるが、もとより両学科には学問的な面でかなり近いところもあるため、両者の間でできる限り有機的な連携を保持するように努める。そして本学科の設置により、既存の国際学科の教育の質の向上も図っていく。

イ. 学科の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」(平成 17 年 1 月 28 日)の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」に照らし、本学の学士課程では、「③幅広い職業人養成」、「④総合的教養教育」、「⑦社会貢献機能」を併せ持ち、担っていくことを目指している。

その上で前記の教育目的を達成するため、本学科は以下のような教育上の特徴をもたせる。

1. グローバルで多文化な世界の現状を深く理解しうる科目の配置

新学科の教育目標を実現するために、グローバルで多文化な社会の現状を地球規模の問題として研究する科目群 (Global Studies) と多様な社会 (特にアジアと日本を中心とした地域) を相互作用及び比較の観点から研究する科目群 (Transcultural Studies) を配置する。このような複雑な世界を的確に理解するためには、まず何よりも学際的な総合的理解が求められる。本学科では、このような観点から学際的なアプローチを可能とするカリキュラムを提供する。さらにグローバルに活躍できる人材として、自らの、あるいは関連の深い文化的背景をしっかりと理解することが必要である。このため本学科では、アジアからの留学生、欧米からの留学生等の入学を想定し、日本研究やアジア研究を重視する。

2. 国際的環境での少人数かつ双方向型教育

新学科では、少人数教育を迫及し、きめ細かな教育を行うのみならず、真の国際的環境での双方向型教育を迫及する。本学科では上述したとおり、入学定員のうちの半分は英語が堪能な学生である ES (English Speakers)、残りの半分が日本人学生を含む英語を母国語としない EL (English Learners) の構成を想定する。2つのタイプの学生比率を同じ程度にする理由は、その比率での教育が、本学科が目指すバイリンガルな環境に適しているからである。

さらに、国際学部として学期ごとに、40名程度の交換留学生(半年ないしは1年)の受入を想定している。既に本学部では、毎学期25名程度のカリフォルニア大学の学生(以下

UC 生と呼ぶ)を受け入れており、UC 生以外の交換留学生の受け入れも検討している。これらの ES 生(新たに開拓する交換留学生と UC 生)と、新学科の ES 生と EL 生が、英語を主要としつつ、日本語も補助的に利用し、同じ授業を受けることで、バイリンガルに交流できる環境を提供し、かつ国際問題研究への関心を深めさせる。

このような多国籍の学生で構成される少人数クラス(ほとんどのケースで 10 人~30 人)における授業は、その授業の方法自体が従来の日本の教育方法と比べて自ずと異なり、欧米の標準的な授業環境のような、教員と学生の双方向のコミュニケーションに基づく授業となる。

3. ライフ・キャリア・デザイン教育の重視

ライフ・キャリア・デザインに関して多様な関心を有する新学科生に対し、個別に適切な指導を行う予定である。本学科のカリキュラムにおいては、1 年次のガイダンス時から、後述するアカデミック・アドバイザー制度を通して、学生のカリキュラム・ガイダンスと並んでライフ・キャリア・ガイダンスを提供し、早期からの自分のライフ・キャリア・デザインを意識させる。そして 1 年次後期からライフ・キャリア・デザインの基礎科目(Life and Career Development 1/2)を必修科目として学習させ、学生自身が将来の自分の職業や方向性を十分に意識し、そのために何が必要かを自覚することにより、学生に対し、より強い勉学意欲を掻き立てるよう促す。これも動機付けプログラムの一環である。このプログラムをより効果的なものとするため、Field Study Seminar 等で、社会で活躍しているさまざまな分野の一流の人材に授業の中で講演をしてもらう予定である。

4. 留学あるいは国際インターンシップの原則的必修化

冒頭で論じた本学科の教育目的を実現し、ライフ・キャリア・デザインの実質化を図るために、長期に亘る留学や中長期(1ヶ月~6ヶ月)の国際インターンシップは非常に有効な機会となる。長期留学先としては本学の協定校への 1 年間の留学を基本とする。また中長期インターンシップ先としては、日本国籍の学生には主として外国の機関での研修、また外国籍の学生に対しては、国内外での研修を想定する。このプログラムを通して学生は国際問題や多文化問題を直接体験し、それに対する理解を深めるだけでなく、それに対する対応力を培うことが期待される。特段の事情がない限り、本学科の学生には、上記のいずれかのプログラムを原則的に必修として課す予定である。

5. アカデミック・アドバイザー制度の導入

本学科においては、学問分野は非常に多岐にわたる学際性の強いものとなる。さらには各学生の学修の志向と語学力は非常に多様なものとなると想定される。こうした中で体系的かつ効果的な勉学を可能とするために、各学生に対しアカデミック・アドバイザーを配置する。それにより、科目の選択のみならず、外国での多様な学習(長期留学や中長期の国際インターンシップなど)についても、現場でのアドバイスだけでなく、事前・事後における適切なアドバイスを提供する。このアカデミック・アドバイザーは、1 年次から 4 年次までの全ての学年を対象とする。原則として本学科の専任教員全員が分担してこのポストに就任し、長期留学中や中長期のインターンシップ中の学生とも密接な連絡を保ちな

がら、適切な指導をしていくことを想定している。

6. 英語教育プログラムの充実

a) 学術英語科目 (AEP) の開講

本学科では、上述の EL 生が、少なくとも 2 年次後半からは、英語で専門科目を受講することができるように、AEP を提供する。本学科の AEP は単に英語を習得させるのではなく、英語を用いてリベラル・アーツ教育を行うことを目的としている。AEP ではリベラル・アーツ教育のすべてを身につけるのではなく、特に「批判的思考力」と、書くことを中心とした「自己表現能力」の育成に重点を置く。さらにこの AEP においては、内容中心的アプローチ (Content-based approach) をとる。内容中心的アプローチとは、歴史、文化、経済などの学問的なトピックを英語で学ばせる教授法である。これにより学生は、各学問領域に必要な言語技能を身につけることもできる。

また本学科に属する学生は、後述するように、1 年あるいは半年の海外正規留学やインターンシップが原則必修の形で課されることになる。そのためには、要求される TOEFL 試験の点数を取るだけでなく、各自が選択する専門の分野を英語で理解できることが必要である。それに対し、本学科では TOEFL の対策と「Tutorial」と言った教員対学生のマンツーマンの個別指導を実施するなどの最適な支援プログラムも提供する。

さらに ES 生についても、一定程度の AEP を必修として課す。その意図は、英語に堪能だけでなく、大学の専門教育についていくための、英語による各学問領域に必要な言語技能を身につける必要があるからである。また ES 生に対しては、できる限り多くの日本語習得の機会を提供することを考えている。

このプログラムにおいては、その終了時 (2 年次後期終了時) において、全学生が最低でも TOEFL-iBT80 点 (TOEFL-PBT550 点) (あるいはそれと同等の学部内英語能力検定試験のスコア) を取ることを要求する。それを可能とするためのさまざまな支援対策として、夏期・春期 AEP 集中講座の開催、上級生やチューターを活用する学習支援制度などを充実する予定である。

b) AEP 以外の英語による授業の充実

AEP 以外の専門科目においては、英語による講義科目を合計 44 科目 (Lower Module で 19 科目、Upper Module で 25 科目)、演習科目を 14 科目設置し、英語によって学べる科目を幅広く提供する (後述の「エ. 教育課程の編成の考え方」の節参照)。これらの授業においては、上述したように、基本的に全ての授業が双方向型の授業となる。

また全学生が英語による専門授業を学べるよう、AEP と専門授業との橋渡しとなる授業を設置する (Communication in the 21st Century, Communication in the 21st Century - Discussion Section など)。

7. Project-based Learning および Service-Learning の重視

Project-based Learning とは、特定のプロジェクトを学生が企画・運営し、それを通して学習をする方法で、実践的な知識の獲得や体験を通じ、課題に対する深い理解を得ることを目的とする。学生に、企画・運営・調査および問題解決の一連のプロセスを通じ、長

時間課題を取り組む機会が与え、最終的にその成果（プレゼンテーションや報告書）を出すことが求められる。例えば、学生が無農薬野菜の効果や栽培方法を研究し、販路を開拓し、そのやり方を地域の農家に伝授するというプロジェクトなどがこれに該当する。

Service Learning とは、学生が一定期間、地域活動に参加し、その経験を報告書にまとめるものである。これは単なるボランティア活動ではない。Service Learning に参加することにより、学生は大学で学んだ知識を現実社会の問題解決に応用し、またこの経験により、今後の学習や将来の方向性に関して新しい視点を得ることができる。さらに、学生は社会問題を知識として理解するだけでなく、現実問題に直面することで、感性に裏打ちされた知性 (Emotional Intelligence) を発達させることができる。

Project-based Learning や Service Learning については、国際学科において既にかんがりの実績があるので、それらを本学科でも応用していく。Project-based Learning のこれまでの実践例として、国際学科のあるゼミの学生が主体となって、シリアや国内の過疎の町で長期的に社会調査を行っている取り組みも挙げられる。Service Learning の例としては、本学の国際学科で、横浜市が支援している戸塚地域活性化事業に参加し、廃ろう・キャンドルによるキャンドルナイトや打ち水を、地域の人々と協力しながら実施する等のゼミの学生の取り組みが該当する。

ウ. 学科の名称及び学位の名称

本学科の名称は国際キャリア学科とし、その英語名称は Department of Global and Transcultural Studies とする。

本学科の名称においては、大学教育後の卒業生の将来の進路（キャリア）の特性を考慮し、かつ簡潔な表現を求めて、国際キャリア学科と命名する。本学科では卒業生にまずなによりも国際的な場で即戦力として活躍することを期待しているからである。日本語名称はこの側面を強調し、特に日本で教育を受けた EL 生に卒業後のキャリア・デザインを強く意識させることを意図している。

他方、英語の名称は、Department of Global and Transcultural Studies とする。この英語名称は上記の日本語名称の直接的な翻訳ではない。その理由としては、「国際キャリア学科」という日本語名称をそのまま翻訳すると、国際的に見た場合、大学の学部・学科名称としては誤解を与える可能性が非常に大きいことが挙げられる（この名称は、諸外国においては、標準的に、大学の学科名称としてよりも、各種学校・専門学校の学科名称として受け取られる可能性が大きい。）。その場合に、海外から留学生を募集する上で想定する学生層が集まらないという問題と、また本学科が卒業生の進路先の一つとして重視している海外の有力な大学院への進学に際し、卒業生が意図せざる不利益を被る可能性がある。こうした点を考慮し、国際的に見たときにその対象とする学問内容を正確に理解してもらうという観点から、本学科の英語名称としてこの名称を採用する。上述したように、本学科の専門科目は、グローバルで多文化な社会の現状を地球規模の問題として研究する科目群 (Global Studies) と多様な社会を相互作用及び比較の観点から研究する科目群 (Transcultural Studies) から構成されているので、この名称は適切なものと考えられる。

この結果、国際学部は、国際学科、国際キャリア学科という2学科から構成されることになる。

なお、国際学科と同様に、学位は「学士(国際学)」とし、英文名称は、Bachelor of Arts (International Studies)とする。

エ. 教育課程の編成の考え方及び特色

本学科の教育課程は、基本的に4つのブロックから構成される。(A) Academic English Program(学術英語科目)、(B) 明治学院共通科目、(C) Lower Module、(D) Upper Moduleである。

(A) Academic English Programは、本学科の全学生が基礎的な言語知識として身に付けなければならない必修のプログラムである。(B) 明治学院共通科目は、本学の他の学部の学生と共通なもので、キリスト教基本科目と第二外国語科目、そしてその他の教養教育科目からなる。(C) Lower Moduleは入門レベルの専門科目から、(D) Upper Moduleは応用レベルの専門科目から構成されている。学年配置的には、(A) Academic English Program、(B) 明治学院共通科目、(C) Lower Moduleは1年次の第1学期(春学期)から、そして(D) Upper Moduleは2年次の第2学期(秋学期)から履修できるものとする。

以下で各Moduleの内容を概説する。

【資料A: カリキュラム体系】

1. AEP (Academic English Program) (必修 24 単位; 最低必要単位数=24)

本学科は英語による専門教育を実施するため、特に各学問領域に必要とするレベルの英語の言語技能を習得させるため、1・2年次に集中的にAEP科目を置く。AEP科目では、入学時の英語レベルに関係なく学科生全員に、「Introductory Seminar-Reading & Writing」、「Critical Reading & Writing」、「Multi-Media Communication & Research Writing」の24単位のAEP科目を必修とし、英語を手段として、講義・論文を正しく理解・分析・統合するための基礎学習能力の向上や、さらに応用的なディスカッション・ディベート・レポートの作成を通し、「批判的思考力」の習得を図る。そして英語を主要言語として使用しない学生には、追加的に24単位のAEP科目を履修させる。AEPは単に学生に英語を習得させるのではなく、内容中心のアプローチ(Content-based approach)を通じて歴史、文化、経済などの分野のトピックを英語で学ばせる教授法を実施する。これにより学生は、各分野の領域に必要な言語技能を身につけられる。

2. 明治学院共通科目(必修 4 単位; 最低必要単位数=12)

1) キリスト教の基礎 A/B (必修 4 単位)

本学はキリスト教主義に基づく教育を建学の精神としているため、キリスト教の基礎A/Bを必修とする。

2) 語学科目 (最低必要単位数 8 単位)

日本語が堪能である学生(EL学生)は、明治学院共通科目の外国語基本科目、外国語研究のうち英語以外の1ヶ国語を取得することを選択必修とする(8単位)。また英語を主要言語として使用する学生(ES学生)は日本語を選択必修(8単位)とし、日本語の能力を

高めることで、本学部国際学科が日本語で提供する科目の受講が可能になる。ES 学生に対する日本語教育の提供は、本学科が目指すバイリンガルな教育環境の創出のほか、日常生活に支障がないようにさせるためにも必要なことと考える。

3) D 群・E 群・I 群科目

「キリスト教の基礎 A/B」と外国語基本科目のほか、英語または日本語により提供される全学的な教養教育科目群であり、本学科の学生は一定の範囲内で履修することができる。履修方法については、アカデミック・アドバイザーが個別の学生のニーズに即して指導する。

3. Lower Module (必修 12 単位;最低必要単位数=22)

1) Introductory Seminar 1/2 (必修 8 単位)

1 年生を対象に、本学科における学修の基礎（読み方、書き方、発表方法、勉強方法など）を習得させながら、同時に本学科の幅広いテーマ群を認識させる科目と位置づけ、必修とする。春・秋の両学期に、3 人の領域の異なる教員が担当し、週 2 回の授業のうち 1 回を講義に、1 回を討論にあてて実施する。

2) Qualitative Methods and Quantitative Methods (最低必要単位:2 単位)

在学中のプロジェクトの実行や卒業論文の作成において、必要なデータを収集し分析できる能力を習得させるために、Quantitative Methods（量的データ分析方法）または Qualitative Methods（質的データ分析方法）のいずれかを選択必修にする。

3) Life and Career Development 1/2 (必修 4 単位)

広範で多様な領域であるグローバル・スタディーズの学びを通して、学生自身に将来どのような職業選択や人生設計へ繋がるのかを認識させ、在学中の自らの履修の指針と卒業後の目標を持たせるために、Life and Career Development 1/2 を必修科目として配置する。

4) Information Literacy

学習を進める上で不可欠な、情報収集及び発信のための基本的な情報リテラシーを習得するために、初級レベルの Introduction to Information Literacy（2 単位）と応用レベルの Information Literacy（2 単位）を提供する。ただし、入学時において情報リテラシーの水準に大きな差異があると想定されるので、個々の学生の能力に応じて、アカデミック・アドバイザーがその履修の方法について指示をするものとする。

5) 講義科目 (最低必要単位:8 単位)

本学科の講義科目は大きくわけて二つの領域で構成されている。1 つの領域は、文化、経済、政治、社会等の各専門領域の基礎を学ぶ科目とグローバルな問題を学際的に研究する科目群で構成される Global Studies である。もう 1 つの領域は、特定の地域の文化、経済、政治を学ぶ科目と特定の地域とグローバル化との相互作用を比較的視点で考察する科目群としての Transcultural Studies である。地域としては幅広い地域を網羅しているが、特に日本とアジア地域に重点を置いている。

Lower Module では、広範で多様な問題に取り組むための基礎的学力を学生に習得させるために、各学問領域の基礎科目としての Global Studies の方にやや重点を置いている。

4. Upper Module (必修 2 単位;最低必要単位数=34)

1) Graduation Seminar, Graduation Project A/B (必修 2 単位、選択必修 4 単位)

Global Studies に関する 4 年間の総仕上げとして、卒論演習(Graduation Seminar) (2 単位) を必修と卒業プロジェクト(Graduation Project A/B) (4 単位) を選択必修科目と位置づける。学科生全員が Graduation Seminar を履修し、Graduation Project A または B のいずれか一つを作成する。Project A では、A4 サイズで 20 頁以上の英語による論文を作成することが課せられ、他方 Project B では、4 年生までに様々な科目で書いた小論文を再検討、再構成した portfolio や事例研究、特定のプロジェクトの実践とその報告の論文の提出か、non-traditional media によるもの(ウェブサイト、ソフトウェア、映画ないし DVD、設計図等)の創作が課される。

2) Internship A/B, Field Study, Independent Study(最低必要単位数=4)

冒頭で論じた新学科の教育目的を実現するために、本学科の学生には長期にわたる留学ないしは国内外のインターンシップ(1ヶ月~6ヶ月)のいずれかの取得を、特別な事情のない限り、強く推奨する。これらは本学科の基幹的な科目である。

国際学部国際学科では、ゼミの教員の引率のもと、ゼミ生が1週間から2週間程度、海外の特定の地域の文化、経済、政治、社会等の、特定のテーマについて実地学習する「校外実習」を実施しており、本学科でも Field Study として設置する。学生は教員の専門分野や Field Study のテーマ等に基づき、ゼミを選択し、実習を行う。また Field Study の履修を希望する学生は、それと合わせて Field Study Seminar を履修しなければならない。このセミナーでは、Field Study の事前勉強と事後の成果検証とを行う。

Independent Study は、学生が学科で提供されていない特定の課題を自主的に研究・学習することに対し単位を与えるコースである。受講者は学習の目標と計画書を指導教官に提出して、承認を得た上で研究・学習を開始し、必要に応じてアドバイスを受ける。そして指導教官が受講者の学習成果を示す論文や作品を評価する。この科目は、学生の自主的な研究・学習を支援するものである。

本学科では、以上の科目群の中から、最低でも 4 単位の履修を必修とする。

3) 講義科目(最低必要単位数=24)

この構成は Lower Module のケースと同様、Global Studies と Transcultural Studies から構成されている。Upper Module では、Global Studies より、Transcultural Studies の科目にいくぶん重点を置く。

上述したように、本学科では、学科科目における専門教育の学修と併せ、キリスト教主義に基づく人格教育や諸領域分野の学問が学べる明治学院共通科目における教養教育の学修体系も整えている。また、学際的な特徴を有する学科の専門教育においても、各学問分野の基礎学修科目を配し、両者を一体化することで、幅広い教養的知識の習得を図っており、2008 年 12 月 24 日の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」における、「教養教育や専門教育などの科目区分にこだわるのではなく、一貫した学士課程教育の構築」にのっとりたカリキュラムとなっている。

5. 9月入学者に対する対応策

本学科では、9月入学者を想定している（募集定員10名。なお受験対象は、国内のインターナショナル・スクール出身も含むES生を原則とする）。9月入学者が履修上不利益を被ることがないように、十分な教育上の配慮を行う。

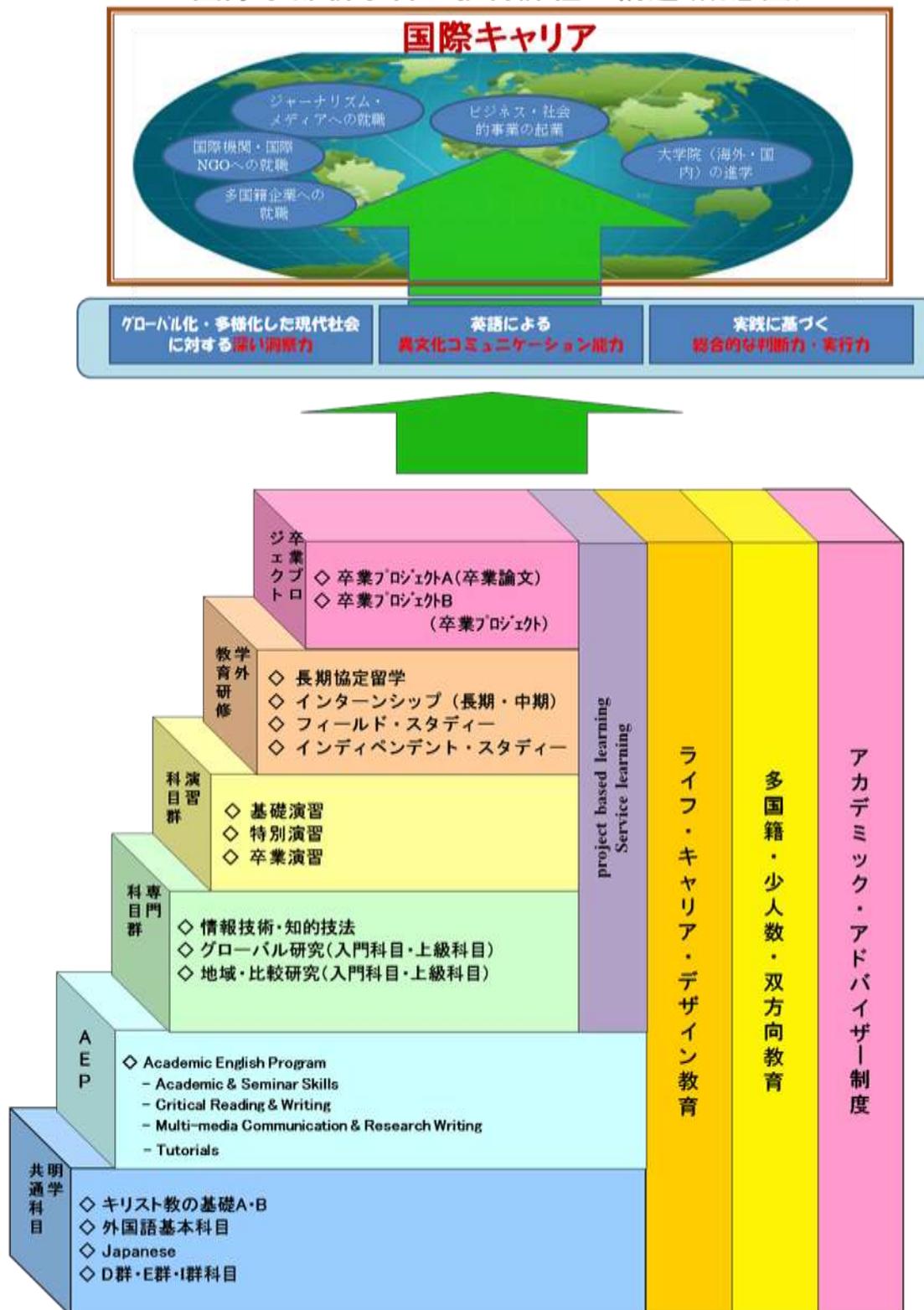
たとえばAEPであるが、基本的に担当教員が各学生の英語能力を調査した上で、クラス分けをしているが、AEPのクラスが英語能力に応じて複数存在するため、9月入学者も後期に開講するクラスの中から、英語能力に応じたクラスで学習できる。また、彼らにとって必要となる日本語科目も、9月入学生向けに語学レベルに応じたクラスでの学習への対応を予定している。

講義・演習科目の授業については、本学科では完全 Semester 制をとっており、Semesterごとに完結した内容となっているため、体系的な学修に関して問題はない。ただし、必修科目のうち、「キリスト教の基礎 A/B」、「Introductory Seminar1/2」は4月入学の場合と履修年次が半期ずれるため、9月入学生が体系的に履修できるよう、開講科目に配慮を行う。さらに「Graduation Seminar」と「Graduation ProjectA/B」については、9月入学生の第8 Semesterにあたる前期にも設定し、卒業に必要な修了単位を取得できるよう対応する。

また、本学科は少人数制（1学年50人）でかつアカデミック・アドバイザー制を充実するため、9月入学者に対する教育上の配慮は充分整えられている。

【参考図：教育課程の構造(概念図)】

国際学部新学科の教育課程の構造 (概念図)



才. 教員組織の編成の考えた方及び特色

本学科は既存学部である国際学部国際学科を再構成して立ち上げる新学科である。そのため専任教員は基本的に母体である既存学科からの移籍の形を取る。本学科の専任教員は全部で8名とする。

本学科の中心的基礎科目の一つはAEPであり、それに対しては、本学部国際学科所属教員（准教授）1名を責任者として配置し、その他に兼任2名が担当する。

それ以外の専任教員は、基本的には基幹となる講義科目を担当する。本学科の学問上の特徴はその学際性にある。また専任教員は国際分野において豊かな研究・教育経験を有するものを中心に充当する。その教員組織の特性は、以下の通りである。

1) 専門分野構成

| | |
|---------|----|
| 文化領域 | 3名 |
| 経済領域 | 2名 |
| 政治・法律領域 | 2名 |
| 広域領域 | 1名 |

2) 教授職位構成

| | |
|-----|---------------|
| 教授 | 4名（博士3名、修士1名） |
| 准教授 | 4名（博士3名、修士1名） |

3) 年齢構成

| | |
|---------|----|
| 61歳以上 | 0名 |
| 51歳～60歳 | 3名 |
| 41歳～50歳 | 5名 |
| 31歳～40歳 | 0名 |

4) 母国語構成

| | |
|--------------|----|
| 英語を母国語とする教員 | 3名 |
| 日本語を母国語とする教員 | 5名 |

以上から分かるように、本学科所属の教員は、専門分野の構成、教授職の構成、年齢構成、および母国語の構成から見てきわめてバランスがよく取れているといえる。

また本学科の教員組織の最も大きな特徴として、既存の国際学科の専任教員と、教育上・研究上の交流が密になされている。国際学科所属の専任教員の過半数は、基本的には兼任教員として本学科の英語での講義科目を担当する予定である（24名）。一方、本学科所属の各教員も、原則的には国際学科の科目を一つ担当することになる。これは本学科の教育上にとっても、重要な蓄積となる。

このような関係は研究面でも見られ、各学科単位ではなく、学部全体で連携を行うことによって、初めて実効性のある成果が得られると考えられる。なお両学科の専任教員から構成される本学部の附属研究所が、本学部の研究活動の推進母体となる。

力. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教育方法及び履修指導方法

教育課程に基づく各授業科目は、その内容と教育レベルの面からは、上述の Academic English Program、明治学院共通科目、Lower Module、Upper Module の 4 つの群、そして授業形態の面からは、Academic English Program、講義科目、インターンシップまたは海外留学、卒業研究に区分され、以下のように実施される。

【資料 B: 卒業に必要な単位数】

1) Academic English Program

下記の a) ～ c) の科目は学科生全員にとって必修であり、また EL 生については、d) ～ g) も履修しなければならない。

a) Introductory Seminar1/2: Reading & Writing Section1A/1B (1年次の前期・後期、各学期 4 単位、必修) は、本学科の専任教員 3 名が各学期に入門ゼミナール(Introductory Seminar 1/2)を実施するが、その履修を円滑にするために、その内容を掘り下げ、理解を確実にし、かつ深めることを目的とする。この科目は週 2 回実施される。学生を 3 つのレベルに分け、履修者数を 1 クラス 15 名程度にする。

b) Critical Reading and Writing 1A/1B (1年次の前期・後期、各学期 4 単位、必修) は、学生の批判的思考力の習得、さらに読解した文献への批評を書いて表現することを通し、書くことが思考の一形態であることを認識させることを目指す。学生を 3 つのレベルに分け、履修者数を 1 クラス 15 名程度にする。

c) Multi-Media Communication & Research Writing (2年次の前期・後期、各学期 4 単位、必修) は、情報化社会において求められる多様なコミュニケーションに対応できるための技能と思考を習得させる。学生を 3 つのレベルに分け、履修者数を 1 クラス 15 名程度にする。

d) Academic & Seminar Skills 1A/1B (1年次の前期・後期、各学期 4 単位、選択必修) は、高校の英語学習から大学での英語運用能力の習得学習への橋渡しをする科目で、速読力や語彙力等の英語における総合学習技能の習得のほか、学生の自主的な学習意欲も育成する。学生を 3 つのレベルに分け、履修者数を 1 クラス 15 名程度にする。

e) Academic & Seminar Skills 2A/2B (2年次の前期・後期、各学期 4 単位、選択必修) は、海外留学での成功やインターンシップ先で活躍できるような技術を習得させる。学生を 3 つのレベルに分け、履修者数を 1 クラス 15 名程度にする。

f) Tutorial / Lab 1A/1B/2A/2B (1, 2年次の前期・後期、各学期 1 単位、選択必修) は、本学科で要求される課題に学生が対処できるような助言や支援と、小論文その他の課題に対して 1 対 1 で指導することを目的としている。学生を 3 つのレベルに分け、履修者数を 1 クラス 15 名程度にする。

g) Tutorial 3A/3B/4A/4B (3, 4年次の前期・後期、各学期 1 単位、選択必修) は、本学科で必要な英語による卒業論文の作成を支援するために、学生 1 対教員 1 で指導すること

を目的としている。

2) 講義科目

講義科目は、基本的には2つの部分からなる。一つは、明治学院共通科目の中の語学科目である。これは基本的に1コマ90分で1単位である。もう一つは講義科目群であり、1コマ90分で2単位となる。

一部の明治学院共通科目および国際学科の専門科目を除き、本学科の講義は原則として全て英語で行われる。講義科目はその水準に応じて、Lower Module と Upper Module の2段階に区分される。またその対象に応じて、Global Studies と Transcultural Studies の2つのクラスターに分かれる。学生は、担当のアカデミック・アドバイザーと相談しながら、自分の目的に合った講義科目を選択することになる。

3) インターンシップまたは海外留学

本学科の学生は2年次後期以降インターンシップまたは海外留学に参加することを原則として必修にしている。長期のインターンシップ(6ヶ月程度)は6単位、中期のインターンシップ(1ヶ月程度)は4単位である。海外留学で取得した単位は、本学科ですでに取得している科目と重複しないもので、本学科で提供している科目に内容がほぼ該当する科目であれば、その内容を精査した上で可能な限り卒業単位として認定する。インターンシップ中は、専任教員が派遣先を訪問し、当該学生への指導、助言を行う。留学先の選定は、専任教員からなるアカデミック・アドバイザーが助言をし、留学中は本学科の国際交流担当教員および本学部事務室の職員が支援をする。

4) 卒業研究

卒業プロジェクト(Graduation Project A/B)(各4単位)の完成のために、学生は特定の教員の Graduation Seminar を選択し、後期に週1コマの指導を受ける。なお、卒業プロジェクトの準備には1年以上かかるため、3年次と4年次において、アカデミック・アドバイザー制度を通して、適宜指導を行っていくこととする。

2. 卒業に必要な単位数

卒業に必要な単位数は130単位である。詳細は前述の(資料B)の示す通りである。

3. 典型的な履修パターン(履修モデル)

既に言及したように、ES生とEL生から構成される本学科では、ESとELの学生の間で履修パターンは基本的に異なることになる。EL生のケースについては、その典型的な履修パターンは(資料C)で示され、ES生のケースは、(資料D)で示される。なお、1年間の協定留学を利用する場合には、両者のケースとも協定校で取得した単位の認定が行われるので、その履修パターンは異なってくることになる。

本学科が養成する人材は、先述したように、国際的な場(国際機関・外資系企業・国際NGO団体等)において即戦力として活躍できる人材であり、学生自身が目標とする進路によって履修する科目は異なるが、アカデミック・アドバイザーのもと、最適な履修ができ

るよう考慮する。

【資料 C: セメスター別科目履修サンプル(EL 学生)】

【資料 D: セメスター別科目履修サンプル(ES 学生)】

4. 年間登録上限および留学による単位認定の上限

大学設置基準第 27 条の 2 にもとづき、各年次にわたって適切に授業科目を履修できるよう、授業科目の配当年次や履修要件について適正に設定する。本学科において、履修登録の上限は、1 年次と 2 年次においては各学期 23 単位、年間 46 単位、そして 3 年次以降においては各学期 24 単位、年間 48 単位とする。

また留学による単位認定の上限は、60 単位としている。

キ. 施設、設備等の整備計画

本学科は、国際学部全体の収容定員および教員数を変更しないという前提の下で、設置計画を進めており、基本的に両学科の教育内容は類似しているものの、目的を達成する手法（英語等の語学力）において差異化を図るものである。両者には研究・教育面で有機的かつ親密な関係が存在する。そのため施設・設備等の整備計画の面において新規の措置は必要ないが、教育研究環境の改善のため段階的に施設・設備や図書館設備・資料の整備計画がある。

1. 校舎等施設の整備計画

本学部は本学横浜キャンパスに研究・教育拠点を置いており、本学科も横浜キャンパスに拠点を置く。今回の学科新設では、学部全体の学生定員と教員定員に変動はないため、施設面の大規模な変更についてはほとんど生じないと考えている。ただし、1 科目当りの平均履修者数が減少するため小規模教室の確保が必要となる。この点については既存の教室や演習室の整備を行い、下記の表の通り、教室数の確保に努めている。

| | 施設 | 設備・備品 | 備考 |
|---|--|--|--|
| 1 | 教室（8～300人収容） ×16室 （他学部との共用） | プロジェクター スクリーン カセットプレーヤー CDプレーヤー DVDプレーヤー VHSデッキ（世界対応） 上記機器収納ラック 黒板 | <授業用> 教室によってはテーブル、イス のみの設備。 |
| 2 | 教室（8～30人収容） ×12室（8号館） | TV VHSデッキ DVDプレーヤー ホワイトボード テーブル、イス | <演習用> 教室によってはテーブル、イス のみの設備。 |
| 3 | 教室（30～42人収容） ×14室（6号館） （他学部との共用） | TV VHSデッキ DVDプレーヤー 上記機器収納ラック 黒板 | <専門外国語用> |
| 4 | コンピュータ実習室 （4号館4階）×3室 （他学部との共用） | デスクトップPC （教員用Windows×1） デスクトップPC （学生用Windows×38） 提示モニター（19） 液晶ペンタタブレット(1) モノクロプリンタ(2) OHC(1) | <情報処理実習用> |
| 5 | コンピュータ実習室 （8号館3階）×2室 | デスクトップPC （Mac×6） （Windows×36） デスクトップPC （サーバー用） 上記機器収納ラック デスク、イス（36人用） | AV教材作成や授業準備用として 使用。今後授業用・演習用と しても使用。 |
| 6 | 学部長室 （8号館2階） | 学部長デスク 書棚 応接セット ノートPC（Windows×1） テーブル、イス | 学部長執務の他、各種委員会用 として常用。 |
| 7 | 会議室 （8号館2階） | 会議用テーブル（30人用） イス（30脚） サイドデスク付イス （10脚） ノートPC（Windows×1） プロジェクター（3台） スクリーン ホワイトボード（2台） 同時通訳用マイク(20本) | 定例・臨時の教授会用として常用。 |
| 8 | 資料室 （8号館3階） | 職員執務設備一式 テーブル・イス デスクトップPC （検索用Windows×2） 書棚（書庫） ロッカー コピー機（1台） 手洗い台 | 図書館職員が非常駐管理。 |

なお、本学科設立に伴い、従来の機材等の一部の更新について検討している。特に、今後一層の教育の多様化と国際化を達成するために、本格的な遠隔授業の導入を予定している。そのための最低限の設備の設置計画を検討する。

2. 図書館設備や図書資料の整備

国際キャリア学科が対象とする教育・研究分野は、既存の国際学科とほとんど重複しているため、基本的に図書等の資料を増やすことはしない。しかし、AEP の提供、ライフ・キャリア・デザイン科目の実施、中長期のインターンシップの実施などの国際キャリア学科独自の英語運用力を重視した教育を行うために、下記のを新たに導入する。まず、AEP だけでなく専門、演習科目にも使える、Opposing Viewpoints Resource Center (英語圏で論争となっている多様な問題に関する幅広い文献や音声データが収録されているもので、2010 年度図書館予算新規契約予定)、国際情勢データベースの Global Issues in Context といったデータベースを整備する予定である。また、国際キャリア学科所属の教員の教育・研究活動を支援するために幾つかの電子ジャーナルを契約・購入し、若干の洋図書(30 万円程度)を加える予定である。

図書館の閲覧室、閲覧席数などの設備については、国際学部定員総数が変わらないため、既存の設備にて十分対応可能と考えている。加えて学科の重視する教育に寄与するものとして、図書館に CD や DVD 等の既存の視聴覚資料とデータベースや電子ジャーナルといった、Web 経由のオンライン資料を融合的に利用できる設備(「ハイブリッド閲覧席」(仮称))を 2010 年度に整備する予定である。

他大学との図書館協力については、通常の資料相互貸借(ILL)や複写サービスに加えて、横浜市内大学図書館コンソーシアム(加盟 14 校)および山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム(加盟 8 校)に加盟していることで、利用者にとってより密接かつ利便性の高いサービスを提供している。

ク. 入学者選抜の概要

本学部の教育目標は、現代のグローバル社会の諸相を理解し、世界の平和と福祉に貢献する人材の育成である。そして本学科のそれは、「国際キャリア学科は、グローバル社会の諸問題に対する、政治・経済・文化の各分野からの総合的な理解能力を涵養するとともに、多言語でのコミュニケーション能力を身につけ、多様な環境の下に生きる人々と協力し、リーダーシップを発揮できる能力を持つ人材を養成することを目標とする」であり、本学科の入学選抜の方針は、これらの教育目標を達成する意欲と能力を有する人材を選抜することにある。本学科では、様々な経歴・分野から、このような特性を有する人材を選抜したいと考えており、本学科が望む人材の選抜のため、複数の選抜方法によって学生を集めることを想定している。

本学科においては、上述しているとおり、基本的に 2 つの学生層を想定している。第一の層は、英語に堪能で、入学時において英語によるコミュニケーション力を十分に身につけている学生群(English Speakers (ES)、海外からの留学生や帰国生等)であり、第二のそれは、入学時においては一定程度以上の英語力を身につけているとはいえ、専門教育を

英語で受けるために英語力の向上が必要な学生群（English Learners（EL））である。

本学科は、これらの2つのグループの学生に対し、上述のような国際社会で即戦力として活躍できる人材を育てたいと考えている。このような2つの背景を持つ学生が同じ場所で教育を受けることにより、多文化の環境を大学在学中に経験することができる。

次に入学者選抜方法であるが、海外に在住するESの学生については、一般的な志願書類（成績証明書のほか推薦状、志望動機書など）を提出させるほか、TOEFL（英語力）、SAT（大学進学適性試験）、SATII（大学入試科目試験）において一定以上のスコアを要求する。なお、海外在住のES学生については直接的な面接試験を行わないが、それに代わって、必要がある場合には電話での応対やSkypeを用いての面談を考慮する。

日本に在住するESの学生については、上記スコアの他に面接を実施する。また日本に在住するELの学生については、TOEFL（英語力）、SAT（大学進学適性試験）、SATII（大学入試科目試験）またはセンター試験の成績（英語、社会（地理、世界史、日本史、政経のうちの1つ）または数学（数学I・数学Aまたは数学I・数学Aのうちの1つ））、並びに面接を実施する。またこれらのEL学生に対しては、英語力のみならずその他の科目を含む基礎的学力の高い学生にも入学の機会を提供したいと考えているので、一般入試の活用も検討する。

それと同時に、外国で教育を受けた高校生及び国内のインターナショナル・スクール卒業生も本学科で受け入れることを想定しているため、9月入学制度も考慮する。この場合の選抜方法は、上記の国内外に居住するES学生のケースに準じたものとする。

サ. 企業実習や海外語学研修など学外実習を実施する場合の具体的な計画

既に述べてきているように、本学科にとって実際の国際的な環境で学ぶことは非常に重要な位置を占めている。その学習環境は多様であり、以下の3つが主要なものである。

1. 長期留学
2. Internship
3. Field Study

上記のプログラムについて、以下で説明する。

1. 長期留学

ここで長期留学というのは、本学が協定を結んでいる海外の大学に対して、原則として1年間派遣することを指す。本学は現時点で、春留学対象校（春学期から1年間の派遣）が4校、秋留学対象校（秋学期から1年間の派遣）が12校の合計16の大学と協定を締結しており、学生を派遣している。協定留学先の中で、カリフォルニア大学（UC）が最も規模が大きく、その受入枠は年間25名である。それ以外の各協定校については、その枠は数名にとどまる。その実績については、参考資料を参照されたい。

【資料 E： 長期留学過去の派遣実績】

この表から分かるように、現時点で協定校の受入枠は、春と秋をあわせて72名であり、

一方本学からの派遣留学生数は最近 5 年間の実績では、28 人～45 人、そのうち本学部からの派遣留学生数は 10 人～21 人となっている。

さらに 2009 年度から新たにイギリスの 2 大学（マンチェスター大学とオックスフォード・ブルックス大学）との間で協定を締結し、学生の交換を開始している。

本学科は、この長期留学の制度を使って、できる限り多数の学生を 1 年間協定校に派遣することを計画しており、そのための最大限の支援を行う。

なお協定校への派遣留学をする学生は、派遣先大学で取得した単位のうち最大で 60 単位を、学部教授会の審査により、認定することが認められている。

2. Internship

国際インターンシップも、本学科において非常に重要な位置を占める。これは原則として、1 ヶ月から 6 ヶ月に亘るインターンシップを想定しており、さらに実施場所として、海外と国内の両方を考えている。日本における国際インターンシップの対象者は、基本的に本学科に所属する外国籍の学生であり、かれらは日本の国際機関や企業の国際部門で研修することになる。またそれ以外の学生に対しては、海外におけるインターンシップの機会を提供する。本学部では既に、メルボルンとロサンジェルス の 2 箇所を海外のインターンシップの拠点としている。このインターンシップの受入数はメルボルンとロサンジェルスとも、夏期と春期の各々 30 名程度である。実績については、資料 F を参照されたい。

これらの 2 箇所のプログラムにおいては、1 ヶ月のインターンシップが基本的な形態であるが、6 ヶ月に亘るインターンシップも 2010 年度から開始している。

【資料 F: 国際インターンシップ実績】

その他、学部として、インターンシップの事前研修、現場での指導そして事後指導を担当する専任教員を 2010 年度から採用し、2011 年度開設時に本学科の専任教員とする。この専任教員を中心とし、国内外の研修先を開拓し、かつ当該プログラムを充実させていく計画である。

本学科では、このような国際インターンシップを通して、異文化コミュニケーションや国際的な多角的環境における共同作業を実際に体験し、それによって国際学研究に対するモチベーションを高め、より一層の熱意を持って勉学に励んでもらうのみならず、その経験を将来の自己のキャリアに接続させていくことを期待している。

3. Field Study

これも既に本学部で「校外実習」として長年にわたり実施してきているものである。これは基本的には 2 週間の実習プログラムであるが、学生はそれとセットで、事前・事後の学習を行う Field Study Seminar を受講しなければならない。このプログラムの内容は非常に多様であり、またその実施先も多岐に亘る。

これまで本学部では「校外実習」への学生の参加度はきわめて高く、毎年ほぼ 60%～70% が参加している。本学科においても、この伝統を引き継ぎ、Field Study としてこのプロ

グラムを実施する。

なお、本学科では、Internship の代わりに Field study を選択することも認めている。

【資料 G: 校外実習実績(参加者数)】

【資料 H: 校外実習実績(実習地)】

ツ. 管理運営

本学部教授会は両学科の教授、准教授、専任講師によって構成され、原則として月に 1 回学部長によって招集され、学則により規定されている次の事項を審議する。

- (1) 学部長候補者の推薦に関する事項
- (2) 教員の任免、留学者の人選等学部の人事に関する事項
- (3) 学部の予算編成に関する事項
- (4) 学科の設置および廃止に関する事項
- (5) 授業科目の設置および廃止に関する事項
- (6) 学科課程ならびに履修指導に関する事項
- (7) 入学、留学、退学、休学、転学科および編入学に関する事項
- (8) 学生の賞罰に関する事項
- (9) 試験および卒業に関する事項
- (10) 委託生、科目履修生および外国人学生に関する事項
- (11) その他学部の組織運営に関する事項

教授会での審議を円滑に行うため、各学科の教授、准教授、専任講師によって構成される学科会議は、原則月に 1 回、学科主任によって招集され、学科に係わるカリキュラム、人事、学籍、予算等について、学科内規等に即して審議する。

また、今後本学部においては、教授会の下部組織として、学部長が、主任会議（学部長、両学科主任、大学院委員長・同主任、附属研究所所長・同主任）を定期的に招集し、それぞれの学科会議での審議事項や教授会における審議事項等について協議し、教授会の円滑な運営を図る計画である。さらに、予算、図書、カリキュラム、学生相談、修学支援等の委員会を設置し、両学科から委員を選出し、これらに関する課題について審議し、両学科および本学部の運営の円滑化を図るとともに、その教育・研究の目的を達することができるように努めるものとする。

また、本学部専任教員は全員が学部附属研究所の所員を兼務し、研究所の教育・研究部門の活動を推進し、大学と地域との連携を図ることとする。

テ. 自己点検・評価

本学では、明治学院大学自己点検・評価規程を定め、その規程に基づき、自己点検・評価運営委員会を設置し、大学としての自己点検・評価に関わる意思決定を行っている。この委員会は学長を委員長とし、副学長、理事会代表、各学部（含む教養教育センター）長、および法務職研究科長、各研究科委員長、全学共通科目教育機構長、学長室長、大学事務

局長、その他各部局部長から構成されており、法人を含めた全学的な体制となっている。その委員会の下、将来の改善・改革を積極的かつ有効的に実現するためのシステムとして、2007年度より自己点検・評価実施委員会を組織し、評価項目ごとに学長、副学長、財務理事、事務局長等を委員長、関連事務局の職員部次長を副委員長とした16の小委員会に分け、現状の把握、長所と問題点の抽出、将来の改善方策の検討といった自己点検・評価活動を行っている。

自己点検・評価の主な項目は、①大学における建学の精神と教育理念、②大学および学部学科（含む教養教育センター）の教育目標と教育方針、③教育活動、④学生支援、⑤ファカルティ・ディベロップメント（FD）、⑥教育組織・教員組織、⑦研究活動、⑧教員評価、⑨教育研究等環境、⑩社会との連携、⑪国際交流、⑫事務組織、⑬管理・運営、⑭財政、⑮内部質保証の体制、を基準としている。

これらの自己点検・評価の結果については、その客観性を高めるために外部の検証を受ける仕組みを設けている。2008年度より「明治学院大学外部評価委員会」を設置し、10名以内の学外有識者による評価を受けている。認証評価についても、2007年度に法務職研究科が専門職大学院の認証評価を、2009年度には機関別認証評価を受審し、今後も政令で定める期間ごとに受審する計画である。

また、教育内容・方法に関する評価として、大学全体で学生による授業評価を専任教員だけでなく非常勤講師が担当する科目も含め、毎学期実施している。評価内容としては、全学共通の質問項目（学生本人の授業態度、シラバスの活用、授業環境等）と、学部学科独自の質問項目（実技・実験系科目、実習科目等の取り組み、体験活動による学修等）から構成される。

これらの学生による授業評価について、個々の教員レベルでの授業改善だけでなく、中期的見通しをもって学科の教育課程のあり方、授業方法のあり方等について、学年進行に伴って点検・評価し、学生と教員との相互的学修となる教育実践のあり方に確実に反映させていくために学科独自の分析・検討を行う。

ト. 情報の提供

大学のホームページや本学部学科のオリジナルホームページを充実させ、情報提供に努めている。

これらのホームページにより提供している情報は、大学の理念・目的、学部学科等の教育目標、カリキュラム、シラバス、学則、大学の基本情報（定員、学生数、教員数等）、自己点検・評価報告書、財務情報、事業計画、事業報告、教員の専門分野、プロフィール（著書・論文、所属学会等）等である。

特に、学部学科のホームページにおいては、英語サイトを充実させ、本学部の教育・研究活動に関する密度の濃い情報提供を国内外に対し行うべく、現在鋭意努力中である。

ナ. 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

大学全体としては、副学長を委員長とするFD・教員評価検討委員会を設置し、ファカ

ルティ・ディベロップメント（FD）活動の方向性を検討している。全学的な活動を学部としても行うほか、本学科独自の取り組みとして、学生による授業評価に基づいて講義科目、演習科目、実習科目別に評価の高い教員の授業を見学し、教員相互での授業検討会を実施することを予定している。

また本学部、特に本学科においては、教育内容のグローバル化を強く推進する予定である。すなわち、アメリカやEUのカリキュラムを意識し、それとの互換性を保てるように最大限の努力を傾注する予定である。

そして、学部全体、ないし学科全体として中期的な教育・研究テーマを設定し、積極的に共同研究を行うと同時に、学科全体での研修会、部門別研究会（教科教育、教職、特別支援教育）による研修会も定期的実施し、自己研鑽とともに相互研修に努める。さらに、文部科学省主催のFDフォーラム、教育GPフォーラム等には積極的に参加し、時事の教育・研究動向を把握し、学部・学科における教育・研究に反映させるべく検討を学部・学科として経常的に行う。

二. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（教育課程内の取組）

教育課程内の取組として、まず Life and Career Development 1（1年次後期開講）とLife and Career Development 2（2年次前期開講）を全学生の必修科目とし、1年次から、ライフ・デザインとキャリア・デザインを自覚させる。早期にこれらの科目を履修することで、自分自身のライフ・デザインとキャリア・デザインを意識した学修の取り組みや学生生活等の在り方を検討し、科目の履修や課外活動等に反映していくことが期待できる。また、本学科では、国際社会で活躍できる人材を育成するという観点から、中長期の海外の協定校への留学かインターンシップのいずれかの履修を原則必修としているため、これらの海外生活や実社会での経験を通して適性を見極めるなど、より自身のライフ・キャリア・デザインを明確にすることを図っていく。

（教育課程外の取組）

上述した通り、本学科の教育課程においては、ライフ・キャリア・デザインが中核的な位置を占めているが、これをさらに強化するために、教育課程外でも アカデミック・アドバイザー制度を通して、学生のライフ・キャリア・デザインをフォローしていく。この制度の下で、アドバイザーは個々の学生の詳細なポートフォリオを見つつ、当該学生のこれまでの学習記録、入学時の希望、その後の将来設計などを参考にして、毎学期ごとに取得すべき科目や教育課程外の取組に関して適切な助言を行う。

また、本学のキャリア・センターが主催する各種ガイダンス（「キャリア形成セミナー」、「資格ガイダンス」、「就職ガイダンス」、「基礎講座」、「重点講座」、「実践対策講座」など）への参加を推奨し、学科のライフ・キャリア・デザインと併せ、より実践的な就職活動準備を行えるようにする。さらに卒業後の進路に関する相談や実際の就職活動におけるサポートについても、本学科のアカデミック・アドバイザーと当該センターの職員との連携を強化し、本学科生の主な進路先として想定している国際機関・NGO、多国籍企業、ジャーナリズム、メディア等の情報の収集・提供を行う予定である。

(適切な体制の整備)

上述の教育課程内外の社会的・職業的自立に関する指導の充実のため、大学の関連部署とも有機的な連携を図る。

本学科の教育課程に関連した組織的な連携として、インターンシップ科目では、本学の卒業生組織を管轄する校友センターやキャリア・センターの協力を仰ぎ、卒業生からの実習先の提供やすでに実績のある実習先の提供を受けることにより、より充実した内容とする。さらに、Service Learning の科目 (Community Development、 Social Development、 Localization: how to think and act locally) の実施においては、本学のボランティア・センターと連携し、地域活動の情報の提供と学生の活動のサポート体制を整える。

また、上述のとおり、教育課程外の取組においては、キャリア・センターとの連携を強化し、各種ガイダンスの受講を推奨するなど、実践的な就職活動を支援していく。

このように、国際キャリア学科では、これらの大学のセンターと緊密な連携を保ちながら、学生が自らのライフ・キャリア・デザインを考えることをサポートし、学生が将来の進路に向け、自らの資質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培えるような体制づくりに努める。

<参考資料一覧>

(資料 A)カリキュラム体系

(資料 B)卒業に必要な単位数

(資料 C)セメスター別科目履修サンプル(EL 学生)

(資料 D)セメスター別科目履修サンプル(ES 学生)

(資料 E)長期留学過去の派遣実績

(資料 F)国際インターンシップ実績

(資料 G)校外実習実績(参加者数)

(資料 H)校外実習実績(実習地)

(資料A) カリキュラム体系

Minimum Requirement in Total= 130

| (A) Academic English Programme (学術英語科目) | Units | Status | Clusters | Minimum Requirement |
|---|-------|------------|-------------------------------|---------------------|
| Introductory Seminar - Reading & Writing Sections | 8 | Compulsory | Academic English Program (CS) | 24 |
| Critical Reading & Writing | 8 | Compulsory | | |
| Multi-Media Communication & Research Writing | 8 | Compulsory | | |
| Year 1 Tutorial/Lab | 2 | Elective | | |
| Academic & Seminar Skills 1 | 8 | Elective | | |
| Year 2 Tutorial/Lab | 2 | Elective | | |
| Academic & Seminar Skills 2 | 8 | Elective | | |
| Year 3 Tutorial | 2 | Elective | | |
| Year 4 Tutorial | 2 | Elective | | |
| Communication in the 21st C | 2 | Elective | | |
| Communication in the 21st C - Discussion Section | 2 | Elective | | |

| (B) 明学共通科目 | Units | Status | Clusters | Minimum Requirement |
|------------|-------|------------|---------------------------|---------------------|
| キリスト教の基礎A | 2 | Compulsory | Christianity | 4 |
| キリスト教の基礎B | 2 | Compulsory | | |
| 外国語基本科目 | 8 | Elective | Second Language Programme | 8 |
| 外国語研究 | | | | |
| 集中日本語 | | | | |
| D群科目 | | Elective | | |
| E群科目 | | Elective | | |
| I群科目 | | Elective | | |

| (C) Lower Module | Units | Status | Clusters | Minimum Requirement |
|--|-------|------------|----------|---------------------|
| Introductory Seminar 1 | 4 | Compulsory | GS | 8 |
| Introductory Seminar 2 | 4 | Compulsory | GS | |
| Global History A | 2 | Elective | GS | 8 |
| Global History B | 2 | Elective | GS | |
| Introduction to Economics A | 2 | Elective | GS | |
| Introduction to Economics B | 2 | Elective | GS | |
| Introduction to Sociology | 4 | Elective | GS | |
| International Law | 4 | Elective | GS | |
| Regional Development and World Economy | 4 | Elective | GS | |
| Introduction to International Relations | 2 | Elective | GS | |
| Culture and Society | 4 | Elective | GS | |
| Japanese Culture | 4 | Elective | TS | |
| Intercultural Communication | 2 | Elective | TS | |
| Community Development (Service Learning) | 2 | Elective | TS | |
| Politics and Society in Japan | 2 | Elective | TS | |
| Qualitative Methods | 2 | Elective | IS | 2 |
| Quantitative Methods | 2 | | IS | |
| Life and Career Development 1 | 2 | Compulsory | IS | 4 |
| Life and Career Development 2 | 2 | Compulsory | IS | |
| Introduction to Information Literacy | 2 | Elective | IS | |
| Information Literacy | 2 | Elective | IS | |

| (D) Upper Module | Units | Status | Clusters | Minimum Requirement |
|--|-------|----------|----------|---------------------|
| International Disputes Settlement Procedures | 4 | Elective | GS | |
| Peace Studies | 2 | Elective | GS | |
| International Finance | 2 | Elective | GS | |
| International Journalism | 2 | Elective | GS | |
| International Political Economy | 2 | Elective | GS | |
| Gender and Society | 4 | Elective | GS | |
| Minorities Issues | 4 | Elective | TS | |
| Buddhist Culture | 4 | Elective | TS | |
| Islamic Culture | 2 | Elective | TS | |

| | | | | |
|---|---|------------|----------------------------|-----|
| Japanese Literature | 4 | Elective | TS | 24 |
| Japanese Popular Culture | 2 | Elective | TS | |
| Inter-Cultural History | 2 | Elective | TS | |
| Social Development (Service Learning) | 2 | Elective | TS | |
| Localization: How to think and act locally (Service Learning) | 2 | Elective | TS | |
| Contemporary Japanese Economy A | 2 | Elective | TS | |
| Contemporary Japanese Economy B | 2 | Elective | TS | |
| Chinese Economy | 2 | Elective | TS | |
| Economy of West Asia | 4 | Elective | TS | |
| Economy of South East Asia | 4 | Elective | TS | |
| Regional Economic Integration | 4 | Elective | TS | |
| Legal Issues in International Relations | 2 | Elective | TS | |
| Minority Politics | 2 | Elective | TS | |
| Workshop | 2 | Elective | IS | |
| Contemporary Global Issues A | 2 | Elective | GS/TS | |
| Contemporary Global Issues B | 2 | Elective | GS/TS | |
| Field Study Seminar | 2 | | GS/TS | 4 |
| Field Study A | 4 | | GS/TS | |
| Field Study B | 2 | Elective | GS/TS | |
| Internship A | 6 | | GS/TS | |
| Internship B | 4 | | GS/TS | |
| Independent Study A | 4 | Elective | GS/TS | |
| Independent Study B | 2 | Elective | GS/TS | |
| Graduation Seminar | 2 | Compulsory | GS/TS | 2 |
| Graduation Project A | 4 | | GS/TS | 4 |
| Graduation Project B | 4 | Elective | GS/TS | |
| Transferred Credits or Study Abroad | | | GS/TS | |
| | | | Total Minimum Requirements | 92 |
| | | | Total Requirement | 130 |

* Keys

GS: Global Studies

TS: Transcultural Studies

IS: Innovative Skills

CS: Communicative Skills

(資料B) 卒業に必要な単位数(国際キャリア学科)

| 部門 | 科目区分 | 言語 | 必要単位数 | | 備考 | |
|---------------------|--------------------------------------|-----|----------|------------|-----------------------------|---------------------|
| | | | 必修 単位 | 選択必修 単位 | | |
| (A) AEP | Academic English Program I | E | 24 | | | |
| | Academic English Program II | E | | | (EL生は24単位必修。ES生は他の科目で代替可能。) | |
| (B) 明学 共通科目 | キリスト教の基礎A | E | 2 | | | |
| | キリスト教の基礎B | E | 2 | | | |
| | 外国語基本科目 | J | | 8 | 選択必修 | |
| | 外国語研究 | J | | | | |
| | 集中日本語 | E | | | | |
| | D群科目 | J | | | Lower Module科目で代替可能 | |
| | E群科目 | J/E | | | | |
| I群科目 | J/E | | | | | |
| (C) Lower Module | Introductory Seminar 1 | E | 4 | | | |
| | Introductory Seminar 2 | E | 4 | | | |
| | Life and Career Development 1 | E | 2 | | | |
| | Life and Career Development 2 | E | 2 | | | |
| | Qualitative Methods | E | | 2 | 選択必修 | |
| | Quantitative Methods | E | | | | |
| | Introduction to Information Literacy | E | | 8 | 4単位まで明学共通科目で代替可能 | |
| | Information Literacy | E | | | | |
| Lectures | E | | | | | |
| (D) Upper Module | Lectures | E | | 24 | 8単位まで国際学科の講義科目で代替可能 | |
| | Graduation Seminar | E | 2 | | | |
| | Graduation Project A | E | | 4 | 選択必修 | |
| | Graduation Project B | E | | | | |
| | Field Study Seminar | J/E | | 4 | (Field Study履修者は必修) | |
| | Field Study A | J/E | | | 他のUpper Module科目で代替可能 | |
| | Field Study B | J/E | | | | |
| | Internship A | E | | | | |
| | Internship B | E | | | | |
| | Independent Study A | E | | | | |
| | Independent Study B | E | | | | |
| | Study Abroad | E | | | | Upper Module科目で代替可能 |
| | | | | 42 | 50 | |
| 最小必要単位合計 | | | 92 | | | |
| 卒業要件 | | | 130 | | | |

(資料C) 履修サンプル (EL学生-留学しないケース)

| 1年次 | | | | | | | | 単位 | コマ |
|-----------------------------|----|----|----|-----------------------------|----|----|----|-----|----|
| 春 | 言語 | 単位 | コマ | 秋 | 言語 | 単位 | コマ | | |
| AEP I & II | E | 13 | 7 | AEP I & II | E | 13 | 7 | | |
| キリスト教の基礎A | E | 2 | 1 | キリスト教の基礎B | E | 2 | 1 | | |
| 外国語基本科目1A/B | J | 2 | 2 | 外国語基本科目2A/B | J | 2 | 2 | | |
| Introductory Seminar 1 | E | 4 | 2 | Life & Career Development 1 | E | 2 | 1 | | |
| Lower Module Lectures | E | 2 | 1 | Lower Module Lectures | E | 2 | 1 | | |
| | | 23 | 13 | | | 21 | 12 | 44 | 25 |
| 2年次 | | | | | | | | | |
| 春 | 言語 | 単位 | コマ | 秋 | 言語 | 単位 | コマ | | |
| AEP I & II | E | 9 | 5 | AEP I & II | E | 9 | 5 | | |
| 外国語研究1A | J | 2 | 1 | 外国語研究1B | J | 2 | 1 | | |
| Life & Career Development 2 | E | 2 | 1 | Quantitative Methods | E | 2 | 1 | | |
| Lower Module Lectures | E | 6 | 3 | Lower Module Lectures | E | 6 | 3 | | |
| | | 19 | 10 | | | 19 | 10 | 38 | 20 |
| 3年次 | | | | | | | | | |
| 春 | 言語 | 単位 | コマ | 秋 | 言語 | 単位 | コマ | | |
| Year 3 Tutorial | E | 1 | 1 | Year 3 Tutorial | E | 1 | 1 | | |
| Upper Module Lectures | E | 14 | 7 | Upper Module Lectures | E | 10 | 5 | | |
| Field Study Seminar | E | 2 | 1 | Field Study A | E | 4 | 2 | | |
| | | | | Internship | E | 4 | | | |
| | | 17 | 9 | | | 19 | 8 | 36 | 17 |
| 4年次 | | | | | | | | | |
| 春 | 言語 | 単位 | コマ | 秋 | 言語 | 単位 | コマ | | |
| Year 4 Tutorial | E | 1 | 1 | Year 4 Tutorial | E | 1 | 1 | | |
| Upper Module Lectures | E | 4 | 2 | Graduation Seminar | E | 2 | 1 | | |
| | | | | Graduation Project A | E | 4 | 2 | | |
| | | 5 | 3 | | | 7 | 4 | 12 | 7 |
| | | | | | | | | 130 | 69 |

| | |
|---------|-----|
| 必要卒業単位数 | 130 |
| 総コマ数 | 69 |

(資料D) 履修サンプル (ES学生-留学しないケース)

| 1年次 | | | | | | | | 単位 | コマ |
|-----------------------------|----|----|----|-----------------------------|----|----|----|-----|----|
| 春 | 言語 | 単位 | コマ | 秋 | 言語 | 単位 | コマ | | |
| AEP I | E | 8 | 4 | AEP I | E | 8 | 4 | | |
| キリスト教の基礎A | E | 2 | 1 | キリスト教の基礎B | E | 2 | 1 | | |
| 日本語1/2/3/4 | J | 4 | 4 | 日本語1/2/3/4 | J | 4 | 4 | | |
| Introductory Seminar 1 | E | 4 | 2 | Introductory Seminar 2 | E | 4 | 2 | | |
| Lower Module Lectures | E | 4 | 2 | Life & Career Development A | E | 2 | 1 | | |
| | | | | Lower Module Lectures | E | 2 | 1 | | |
| | | 22 | 13 | | | 22 | 13 | 44 | 26 |
| 2年次 | | | | | | | | | |
| 春 | 言語 | 単位 | コマ | 秋 | 言語 | 単位 | コマ | | |
| AEP I | E | 6 | 4 | AEP I | E | 6 | 4 | | |
| Life & Career Development B | E | 2 | 1 | Quantitative Methods | E | 2 | 1 | | |
| Qualitative Methods | E | 2 | 1 | Upper Module Lectures | E | 8 | 4 | | |
| Lower Module Lectures | E | 8 | 4 | | | | | | |
| | | 18 | 10 | | | 16 | 9 | 34 | 19 |
| 3年次 | | | | | | | | | |
| 春 | 言語 | 単位 | コマ | 秋 | 言語 | 単位 | コマ | | |
| Upper Module Lectures | E | 18 | 9 | Upper Module Lectures | E | 14 | 7 | | |
| Field Study Seminar | E | 2 | 1 | Field Study A | E | 4 | 2 | | |
| | | | | Internship | E | 4 | | | |
| | | 20 | 10 | | | 22 | 9 | 42 | 19 |
| 4年次 | | | | | | | | | |
| 春 | 言語 | 単位 | コマ | 秋 | 言語 | 単位 | コマ | | |
| Upper Module Lectures | E | 4 | 2 | Graduation Seminar | E | 2 | 1 | | |
| | | | | Graduation Project A | E | 4 | 2 | | |
| | | 4 | 2 | | | 6 | 3 | 10 | 5 |
| | | | | | | | | 130 | 69 |

| | |
|---------|-----|
| 必要卒業単位数 | 130 |
| 総コマ数 | 69 |

(資料E) 長期留学過去の実績

(協定校のみ抜粋・2004年度～2009年度)

| | 派遣年度 | | 2004年度 | | 2005年度 | | 2006年度 | | 2007年度 | | 2008年度 | | 2009年度 | |
|-----|--------|-----|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|
| | 出願者数 | | 7 | | 5 | | 5 | | 5 | | 5 | | 5 | |
| 春留学 | 協定校 | 派遣枠 | 合格 | (国際) |
| | モナッシュ | 3 | — | — | — | — | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | ヴィクトリア | 3 | 2 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | フィリピン | 2 | 3 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 3 | 3 |
| | 延世 | 2 | — | — | — | — | — | — | 1 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 |
| | 合計 | 10 | 5 | 4 | 3 | 3 | 3 | 2 | 2 | 2 | 5 | 3 | 4 | 4 |

| | 出願者数 | | 英語圏44/仏語圏22/独語圏7 | | 英語圏49/仏語圏11/独語圏3 | | 英語圏31/仏語圏14/独語圏1 | | 英語圏32/仏語圏12/独語圏1/韓語圏1 | | 英語圏20/仏語圏8/独語圏2 | | 英語圏20/仏語圏8/独語圏2 | |
|-----|--------------|-----|------------------|------|------------------|------|------------------|------|-----------------------|------|-----------------|------|-----------------|------|
| | 協定校 | 派遣枠 | 合格 | (国際) | 合格 | (国際) | 合格 | (国際) | 合格 | (国際) | 合格 | (国際) | 合格 | (国際) |
| 秋留学 | ホープカレッジ | 2 | 2 | 1 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 | 1 |
| | テキサス州立サンマルコス | 2 | — | — | 3 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 4 | 1 | 1 | 0 |
| | カリフォルニア | 25 | 16 | 11 | 24 | 16 | 17 | 6 | 18 | 8 | 10 | 6 | 24 | 16 |
| | ロチェスター | 1 | — | — | — | — | — | — | — | — | 0 | 0 | 2 | 2 |
| | ワシントンカレッジ | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | サイモンブレイザー | 2 | 2 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| | マーストリヒト | 4 | — | — | — | — | — | — | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 延世 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | タマサート | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 3 | 3 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | リモージュ | 10 | 10 | 0 | 6 | 0 | 7 | 0 | 5 | 0 | 5 | 0 | 5 | 0 |
| | エクス政治学院 | 2 | 3 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 3 | 1 | 2 | 0 | 3 | 0 |
| | ハンブルグ | 3 | 1 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 |
| | 合計 | 62 | 36 | 15 | 42 | 18 | 34 | 9 | 37 | 15 | 23 | 7 | 42 | 20 |

出典：国際交流センター作成「留学ハンドブック2008年度版、同 2009年度版」

(資料F) 国際学部インターンシッププログラム参加者数

(単位:人)

| 年度 | 時期 | メルボルン | | | | | | | | ロサンゼルス | | 合計 | |
|--------|-----|----------|----|----|---------------|----|----|-----|-----|----------|----|----|-----|
| | | ビジネス(週間) | | | 日本語アシスタント(週間) | | | | | 日系企業(週間) | | | |
| | | 2W | 3W | 4W | 2W | 3W | 4W | 23W | 25W | 2W | 4W | | |
| 2006年度 | 夏 | 3 | - | 15 | - | - | - | - | - | - | - | - | 18 |
| 2007年度 | 夏 | 0 | 1 | 10 | 2 | 1 | 11 | - | - | - | - | - | 25 |
| | 春 | - | 0 | 0 | - | 1 | 0 | - | - | - | - | - | 1 |
| 2008年度 | 夏 | 2 | - | 8 | 2 | - | 11 | - | - | - | - | - | 23 |
| | 春 | - | 3 | 0 | - | 7 | 1 | - | - | - | - | - | 11 |
| 2009年度 | 夏 | 0 | - | 3 | 2 | - | 7 | - | - | - | - | - | 12 |
| | 春 | - | 0 | 5 | - | 0 | 0 | - | - | - | - | 6 | 11 |
| 2010年度 | 春学期 | - | - | - | - | - | - | 3 | 3 | - | - | - | 6 |
| 合計 | | 5 | 4 | 41 | 6 | 9 | 30 | 3 | 3 | 0 | 6 | | 107 |

※2009年新設プログラム

- ・メルボルン 長期インターンプログラム
- ・ロサンゼルス中期インターンプログラム

(資料G) 校外実習実績(参加者数:2001年度～2009年度)

| 年度 | 実施ゼミ数 | 参加学生数 |
|------|-------|-------|
| 2001 | 11 | 157 |
| 2002 | 10 | 143 |
| 2003 | 11 | 203 |
| 2004 | 15 | 173 |
| 2005 | 14 | 197 |
| 2006 | 17 | 168 |
| 2007 | 15 | 168 |
| 2008 | 20 | 196 |
| 2009 | 16 | 148 |

(資料H) 校外実習実績(実習地:2009年度)

| 地域 | 国 |
|-------|---|
| アジア | 韓国 中国 ベトナム ミャンマー フィリピン 台湾 ラオス |
| 西アジア | イラン トルコ シリア |
| アフリカ | モロッコ |
| ヨーロッパ | イギリス スウェーデン ベルギー ドイツ デンマーク オランダ ポーランド イタリア |
| アメリカ | アメリカ合衆国 エクアドル |